

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
作業療法評価学		必修	2	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
榎田 哲弥 他	C308	t.enokida	月曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	作業療法で使用される評価と評価法に関する知識および技法について学び、それらが各領域での実践においてどのような意味をもつのか理解することを目的とする。なお、授業は動画も活用して理解し、その後、メディアを通じたフィードバック等により理解を深める。				
学習上の助言	授業内容に関する質問は、授業時間外では Teams 上でも受け付けている。疑問や不明な点は早期に解決し、授業の進み方に合わせて理解を深めてほしい。また、必要に応じ解剖学や生理学、運動学などの専門基礎科目の内容と照らし合わせながら理解を深めてほしい。				
教科書	(標準作業療法学専門分野) 作業療法評価学第3版/編:能登真一、山口昇、玉垣努 他/医学書院/2017				
参考書	特に指定しない				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	作業療法評価の目的と意義について説明できる。			OT(1)、(2)	
②	評価過程と評価項目について説明できる。			OT(1)、(2)	
③	記録と報告について説明できる			OT(1)、(2)	
④	各種検査・評価法について説明できる。			OT(1)、(2)	
⑤	場面・状態に応じた各種検査・評価法を選択できる。			OT(1)、(2)、(3)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	(評価学の基礎) 作業療法と評価、再評価と作業療法の効果判定、記録・報告の意義と特徴について学習する。(榎田)	同時双方向型授業	教科書 P.3~33 と提示資料のポイントを整理する。	3	
2	(領域共通の評価法) 面接・観察法、意識の評価、バイタルサインの測定、形態計測について学習する。(榎田)	同時双方向型授業	教科書 P.36~58、65~71 と提示資料のポイントを整理する。	3	
3	(領域共通の評価法) 関節可動域測定について学習する。(榎田)	同時双方向型授業	P.72~95 と提示資料のポイントを整理する。	3	
4	(領域共通の評価法) 筋力検査について学習する。(榎田)	同時双方向型授業	教科書 P.96~111 と提示資料のポイントを整理する。	3	
5	(領域共通の評価法) 感覚検査、反射・姿勢反射検査について学習する。(榎田)	同時双方向型授業	教科書 P.114~150 と提示資料のポイントを整理する。	3	
6	(領域共通の評価法) 筋緊張検査、協調性検査、脳神経検査、上肢機能検査について学習する。(榎田)	同時双方向型授業	教科書 P.151~183、204~212 と提示資料のポイントを整理する。	3	
7	(身体機能評価法) 脳血管障害、脊髄損傷の評価について学習する。(山鹿)	同時双方向型授業	教科書 P.274~P.313 と提示資料のポイントを整理する。	3	
8	(身体機能評価法) 上肢の末梢神経損傷、関節リウマチおよびその類縁疾患の評価について学習する。(山鹿)	同時双方向型授業	教科書 P.330~348 と提示資料のポイントを整理する。	3	
9	(身体機能評価法) その他の神経疾患、神経・筋疾患、内部疾患の評価について学習する。(山鹿)	同時双方向型授業	教科書 P.378~408 と提示資料のポイントを整理する。	3	
10	(高次脳機能評価法) 高次脳機能障害の評価について学習する。(小沢)	同時双方向型授業	教科書 P.441~464 と提示資料のポイントを整理する。	3	
11	(発達過程評価法) 家族との面接、検査などの評価について学習する。(小沢)	同時双方向型授業	教科書 P.546~561 と提示資料のポイントを整理する。	3	
12	(老年期機能評価法) 評価の対象や、認知・知的機能、行動・心理症状 (BPSD) の評価について学習する(中西)	同時双方向型授業	教科書 P.602~622 と提示資料のポイントを整理する。	3	
13	(精神機能評価法) 情報収集、観察法・面接法、さまざまな検査法・評価尺度について学習する。(池谷)	同時双方向型授業	教科書 P.468~489 と提示資料のポイントを整理する。	3	

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

14	(精神機能評価法) 集団における評価、評価法と精神疾患との関係性、回復状態に応じた評価について学習する。 (池谷)	同時双方向型授業	教科書 P.498～513 と提示資料のポイントを整理する。	3			
15	(領域共通の評価法) ADL・IADL や、QOL・興味・役割の評価について学習する。 (榎田)	同時双方向型授業	教科書 P.213～224、P.241～254 と提示資料のポイントを整理する。	3			
試	定期試験 達成度評価・評価ポイントを参照						
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		100	0	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	80	0	0	0	0	80
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	10	0	0	0	0	10
評価のポイント					フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	期末に試験を実施して評価する。試験は、授業で学んだ教科書・配布資料・口頭説明の内容に基づく問題が出題され、その理解度が問われる。			研究室 (C308) またはリモート等で個別に振り返りを行う。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
担当教員：◎榎田 哲弥、小沢 健一、中西 康祐、山鹿 隆義、池谷 政直							
Teams を使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨します。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性があります。							
教員の実務経験：本科目の担当教員は 5 年以上の臨床業務経験がある。							
実践的授業の内容：各教員がそれぞれの専門領域の臨床で得た知見に基づき、作業療法評価の基本的事項について教授する。							